

第8回館長講座 シチリア島の遺跡(2)

ギリシャ時代の遺跡

2017年8月19日

今回は、シチリア島のギリシャ時代の遺跡を中心に紹介します。シチリア島で最初のギリシャの植民都市とされるナクソスから初めて今年サミットが行われたタールミーナ、シラクサ、と東海岸からまわって、安倉医、モルガンティーナ、アグリジェントは通り越してエラクレア・ミノア、セリヌンテ、セジェスタ、北側のティンダリ、に行きます。

マグナグレアキア

シチリアを含む南イタリアの一体をマグナグレアキア、大ギリシャといいます。

ブリタニカ国際大百科事典などによると、古代の南イタリアの東海岸沿いに建設された一群のギリシャ植民市に与えられた名称で、最古の都市は前750年頃に建設されたクマエ（ナポリの北西近く）とあります。ギリシャ人は前750年ごろから異民族の支配が及んでいない西方へ向かって活動を開始した。現在のナポリ、マルセイユ、ニースなどの植民地を建設したが、とくに南イタリアへ進出した。シュラクサイ、ポセイドニア(現パエストゥム)、ゲラを始め無数の都市が築かれている。シシリー（シケリア）は土地も豊かで広く農業国として安定するとギリシャ本土より強大になれた。そのため植民者も殺到し、南イタリアからシシリーの地域は大ギリシア（マグナ=グラエキア）と呼ばれるほどであった。前々回のアグリジェントやあとで紹介するセリヌンテ（古セリヌス）に残る壮大な神殿群はその繁栄を雄弁に物語っています。

シチリア最古の植民都市：ナクソス

ナクソスは、タオルミーナの下の方の南側の湾沿いに細長く広がっています。シチリア最古のギリシャ植民都市として知られています。紀元前735～734年、ギリシャのエウボイア島（現在のエヴィア島）からやってきた人々が、ナクソス湾の先端のスキシ岬に入植したのが始まり。その後、紀元前403年になると、町はコリント人の植民都市シラクサーに滅ぼされました。

ナクソス湾先端の柑橘類が生い茂る広大な土地に、紀元前7～5世紀の町の城壁、門の一部、祭壇や神殿跡、かまどの跡、住居跡などが残っています。

エトナ山から流れ出た溶岩の上に町が築かれたので、基本建築材料は全て黒い溶岩。黒い神殿や祭壇の跡というのも、他では見られない珍しいものです。

矢印のところの横に煉瓦の小片が連なっていますが、これはここまで修復したよ、という印でしょう。

紀元前6世紀の窯が残され、このように屋根をかけて保護しています。

タオルミーナ Taorumina

標高 206m の高台にあり、活火山エトナを仰ぎ、そのエトナを背景に眼下には美しい海岸線を望む洗練されたリゾート地。冬でも温暖で、ブーゲンビリアやハイビスカスが咲き香ります。今年の G7 サミットのおこなわれた町。

ナクソス Naxos が、紀元前 403 年にシラクーサに滅ぼされた後、紀元前 358 年に生存者が集まり、防御に適した山の中腹に築かれた町が、現在のタオルミーナの始まり。したがって町は、紀元前 4 世紀からの歴史があります。403 年ナクソス市の崩壊後はシラクーサの支配下に入った。前 3 世紀建設の劇場、ヘレニズム 時代の神殿とそれに付随した小劇場、などが現存する。

ギリシャ劇場は紀元前 3 世紀、タオルミーナの町の中で一番見晴らしのいい丘をくり貫いて造られました。現在の劇場は、ギリシャ劇場の姿のままではなく、古代ローマ時代の 1 世紀末～3 世紀にかけて、闘技場に改造されています。直径が 109m あり、シラクーサの劇場に次いでシチリアで 2 番目に大きい劇場です。

舞台が設置されていて、遺跡としてだけでなく、活用されています。

シラクーサ Siracusa

シラクーサは、シチリア南東部に位置するシラクーサ県の県庁所在地〔人口約 122,000 人〕。ギリシャ時代にアテネと同じぐらい繁栄したと言われるシラクーサは、有名な天才数学者アルキメデスを生んだ町であり、太宰治の小説「走るメロス」の舞台となった町でもあります。古代ローマ時代に征服された後も、9 世紀のアラブ時代になり、パレルモが首府になるまでは、シラクーサがシチリアで最も重要な町でした。

前 733 年ころコリントス市がシチリア島南岸に築いたギリシャの植民都市で、後に自ら近郊にアクライ Akrai などの孫植民市を建設しました。

ほぼ陸地と繋がっている島のオルティージャ島には、紀元前 6～5 世紀のギリシャ神殿跡だけでなく、1693 年の大地震の後、バロック様式で建てられた豪華な教会や宮殿が残ります。ドゥオモはそのギリシャ神殿跡を改装して作られたもの。教会の中の柱はまさに神殿の柱。写真を撮ったけれどくらくてピンぼけなのでお目につけられない。

海辺にある泉は海のすぐそばなのに真水がわき出ている、パピルスが生えている。

博物館にあるヴィーナス像など。

シラクーサの本土には、考古学公園があり、ギリシャ劇場や円形闘技場を初めとするギリシャ・ローマ時代の遺跡があります。

考古学公園内に、石切り場、ギリシャ劇場、円形闘技場等があります。

ギリシャ劇場は紀元前 5 世紀初期の建造で、その後、紀元前 238 年～215 年に拡大改築されました。直径が 138m あり、シチリアで一番大きいギリシャ劇場です。この場所は元々シラクーサの町の中では高台にあたり、ギリシャ劇場のある場所は緩やかな丘でした。その

丘の石灰岩の岩を掘り抜いて造った劇場です。そのため、劇場の上に登ると、遠くに海が見えます

「ディオニュシオスの耳」は石切り場内にある、ギリシャ時代に石を切り出したあとにできた洞窟。奥行き 65m、高さ 23m あります。洞窟の形が人の耳の入口（外耳道）に似ていることから、1608 年にここを訪れた画家のカラヴァッジョが「ディオニュシオスの耳」と名付けました。非常に音が響くので、洞窟に監禁した政敵の話盗み聞きしていたという伝説があります。

円形闘技場は考古学公園の中で、古代ローマ時代に造られたものです。造られた時期は、遺跡の表示板では紀元後 3 世紀と表記されています。

大きさが 140m×119m あり、シチリアで最も大きい円形闘技場です。円形闘技場の上の部分は崩れていますが、上の崩れている部分の高さも合わせると、かなり立派で巨大な闘技場で周囲の木々と同じぐらいの高さがあったそうです。

アクライ Akrai

シラクサが前 663 年に建設した都市。けわしい斜面に守られ西方にシラクサ平野を見下ろす丘の上に位置した。繁栄した様子は劇場と評議会場の遺構に示されています。

モルガンティーナ Morgantina

古代モルガンティウムの遺跡は、紀元前 5 世紀にギリシャ人によって設立されました。前 5 世紀、まず南方のゲラに征服され、蜂起したシクリ族によって破壊されてからシラクサーの傘下に入ると、退役傭兵が入植するなどで人口が増えた。

モルガンティーナは、商業の重要な中心地でもあったし、軍事的な意味も持っていました。台形に整備された民会場・円形劇場・周辺の邸宅跡・窯跡

エラクレア・ミノア Eraclea Minoa

セリヌンテの古い植民地で、当初ミノアの名だけで呼ばれていたが、紀元前 6 世紀に上陸したスパルタ人によって、ヘラクレスの名を冠してエラクレア・ミノアの名前に変更されました。

アグリジェントの監督局の指揮の下で、組織的な発掘が行われ、古代都市の素晴らしい非常に重要な遺跡が残っています。

ギリシャ劇場、塔と扉のある壁、素晴らしい砂浜が広がり、豪華な松林に囲まれ、素晴らしい海で洗われます。真ん中の写真は、この遺跡の入口ですが、シチリアの青い空と海、ブーゲンビリアの花、私にとってはあのときの気分を象徴する写真です。

よく残されている劇場です。観客席は石がむき出しではなく、プラスチックのカバーが掛けられ、今なお劇場として使われていることがわかります。でも遺構の保存上問題はないのでしょうか。

カルタゴとローマの戦い、ポエニ戦争の中であっちへ付いたりこっちに付いたりしていた、そのあげく町は徹底的に破壊されたということです。

壁の漆喰などの残る建物跡です。

小博物館と出土した大瓶の展示。

セリヌンテ Selinunte

前7世紀中葉にシチリア島東岸の植民都市メガラ・ヒュブライアが向島南岸に築いた植民都市。ギリシャ植民市の中で最西端に位置する。海辺の断崖上に神殿 A・B・C・D がたち並ぶアクロポリスと市街地、ヒュプサス 川の対岸に神殿 E・F・G からなる東の神域、がある。もともとカルタゴとの交易で栄えていた町だが、セジェスタと対立、セジェスタはアテネに介入を頼み、アテネが敗退すると今度はカルタゴにすぎた。それに応じたカルタゴ軍の攻撃で前 409 年、セリヌンテは壊滅した。

E 神殿(ヘラ神殿)は前 5 世紀に再建され、1950 年代に再構築されたもの。

C 神殿(ゼウス神殿)は前 6 世紀で丘の中央に一部立て直された列柱がある。パレルモの博物館には C 神殿のメトウーパの、アテナの加護を受けてメデューサの首を取るペルセウス・いたずら者のケルコプスを退治したヘラクレスなどのレリーフがある。

セジェスタ Segesta

パレルモの東南約 50km にあり、古代名をエゲスタ。トロイア落城後、逃れて来た者たちがここに住みつき、後にセリヌンテと敵対関係に陥りアテネと同盟、さらにカルタゴに服属、第 1 回ポエニ戦争でローマの属領となった。

前 5 世紀以降アテナイと同盟を結んで近隣のセリヌスと国境争いを続け、前 409 年にカルタゴ、次いで前 263 年 にローマの支配下に入る。

ポエニ戦争は、ローマとカルタゴ(現在のチュニジアのチェニス付近)の間での地中海の覇権をめぐる戦いで、前後 3 回戦いがあり、1 回目は 264-241B.C. でシチリアが主戦場だった。2 回目は 216-201B.C.、3 回目は 149-146B.C. で、カルタゴが包囲され破壊されて終わった。

バシリカは、列柱の囲いのみ残り、床石もなく、未完のままのようだ。前 5 世紀後半、セジェスタがアテネに接近した頃に着工され、アテナの敗退後に工事が中断したものと考えられている。でもなぜ完成できなかったのだろうか。謎である。

劇場は前 3 世紀のもの。直径 63m で 20 段の客席は岩をくり抜いて作られている。ローマ時代にも整備された。

遺跡の修復をしたのが 1967 年という表示のプレートが埋め込まれていた。

ドイツ人の観光の団体と一緒にになったのだが、彼らのうちの男女二人が劇場の舞台のところで歌を歌い始め、観客席の上の方に座っていた私たちに歌声がとても美しく聞こえた。ギリシャ劇場の音響効果の素晴らしさを感じた次第。

ティンダリ Tindari

メッシーナの西方約 60 キロメートル、紺碧のティレニア海に臨む断崖の上の遺跡である。前四世紀初頭、シラクーサ軍の退役傭兵のために建設された植民市。

大きな切石による城壁の囲まれた町は格子状に区画されていて、幅 8 m の目抜き通りに沿ってギリシャ劇場やローマ浴場、等が残る。

かつてのアクロポリス(丘上の聖域) には、「黒い聖母」を祀る聖堂が建ち、多くの参拝客を集めている。ティンダリは遺跡よりも聖堂の方が有名。

Caltagirone 陶器の町

カルタジローネはギリシャ時代の町ではないが、17 世紀末のバロック様式で再建された町。サンタ・マリア・デル・モンテの大階段は圧巻。高さ 150 メートル、142 段の階段の蹴上げすべてにきれいな絵タイルが貼られている。

古くから陶器の名産地で、店や工房が軒を連ねる。町の各所に「マジョルカ焼き」があらわれていて美しい。